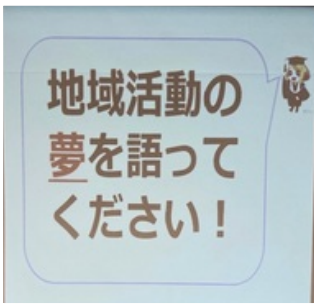
地域推（すい）しんぶん No.13

発行・編集／社会福祉法人広島市社会福祉協議会 地域福祉推進課 地域福祉係
〒732-0822　広島市南区松原町5番1号（BIG FRONT ひろしま6階　広島市総合福祉センター内）
TEL：082-264-6403　FAX：082-264-6413　E-mail：chiiki@shakyohiroshima-city.or.jp

令和８年新春号

“分かった”から“やってみよう”へ
～４つの講座・研修会報告～



10/21　広島市域新任地区社協会長・地域福祉推進委員研修会

参加対象：新任の地区社協会長及び地域福祉推進委員
（就任後おおむね5年以内。就任5年以内であれば複数回参加可能）

この研修会は、新任の地区社協会長や地域福祉推進委員の方々が、地区社協活動をより円滑に推進するために必要な基本的な知識や役割等について理解し、他地区の会長・地域福祉推進委員と交流することで、今後の地域活動に役立てていただくことを目指して開催しています。

▼事業説明をする石田課長

事業説明等　広島市社協地域福祉推進課長

新・福祉のまちづくり総合推進事業の説明や、町内会解散等の地域の現状から組織として地区社協活動拠点を中心に地域活動をバックアップしていく事業を今年度から実施していることを説明しました。また地区社協とひろしまLMOの違いについても説明しました。

活動報告①　南区　青崎地区社協
会長　東　和行氏

歴史ある港町であり、高齢化が進む一方で、マツダの社員寮があるため生産年齢人口は比較的多い地域で、地区社協として目的を明確にした仕組みを作り、各町内会（１０町内会）に設置している「福祉委員」（ボランティアの代表）が取組の推進や運営を担っておられます。

地域福祉推進委員、理事、副会長を経て会長に就任した自身の経験から、話し合いが最も重要で、全ての提案に耳を傾け、協力して取り組むことを重視していると説明されました。

◀「青崎地区を明るく、楽しく、住んでよかった」と思える地域にしたいと話す東会長

活動報告②　安佐南区　東野学区社協
地域福祉推進委員　藤田　安一氏

高齢化率は１２％と全国平均よりも低い一方で、転勤で移り住んでこられた世帯が多く、町内会自治会の加入率も２１％と低い中で、活動拠点で「ふれあい広場」を週３回開設したり、敬老祝賀会は隣の中筋学区社協と合同開催するなど工夫をされています。

仕事をしながら地域福祉推進委員へ就任され、退職後に会長や事務局長の活動を見たり、地域の方の声を聞いたりするうちに、少しずつ自分なりの関わり方を見つけられるようになったと説明されました。

「地域福祉推進委員の活動でモヤモヤはまだ感じているが、笑顔を心がけ、積極的に取り組む姿勢が、長く続ける秘訣」と話す藤田推進委員▶

小グループ座談会

会長７グループ、地域福祉推進委員９グループに分かれ、「心がけていること」「今後してみたい、やってみたいこと」「他の参加者に聞いてみたいこと」というテーマで実施しました。

会長のグループでは「子ども会がなくなり、運営や今後についてどう考えるか？」「地域ならではのユニークな活動はあるか？」等の話題が出され、地域福祉推進委員のグループでは「どのような経緯で推進委員になったのか？」「一番困ったこと、やりがいがあったと思うことは何か？」等の話題について自身の状況を共有されていました。

◀16グループで実施。「色々な地区の意見が聞けて参考になった」「もっと時間が長くても良い」という意見が多く出ました。

12/23　地区社協活動拠点活性化支援事業研修会

～「それ、ええね！」から一歩先へ～

参加対象：地区社協関係者、行政職員、地域包括支援センター職員、障害者基幹相談支援センター職員

本会では令和２年度から、地区社協活動拠点への拠点スタッフの配置を支援する地区社協活動拠点活性化支援事業を開始し、市内１４０地区社協のうち、現在１０２の地区社協で取り組まれています。昨年度『「それ、ええね！」発見・共有会』と題して開催し好評だったため、今年度は障害者基幹相談支援センターも新たに対象に加え、昨年度より一歩先の個別相談に少し踏み込みながら開催しました。

▼中井先生の説明はわかりやすいと大好評

講演「包括的支援体制の整備と地区社協活動拠点」

講師：中井 俊雄先生（ノートルダム清心女子大学准教授）

「『自分が何歳まで生きたいか？』という希望寿命が、日本人は平均81歳で、平均寿命（84歳）とマイナス3歳の差があるのは、核家族等の影響で元気な高齢者像を社会全体で持てていないのではないか」、「初めてひきこもりの状態になった年齢は実は60歳～64歳が最多」などのデータを提示しながら、拠点は単なる場ではなく、安心して頼りにできる拠り所であること、個人情報もセンシティブに扱う必要はあるが、相手との信頼・顔の見える関係であることが実は重要であると説明されました。そして、まずはこれから自分たちの地域では何を目指していくか、どういった拠点なら良いかを各自で考えていただきたいと話をされました。

▲講義内容をより身近に感じてもらうために実施し好評でした

講師と市社協職員のトークセッション

安井くらしサポート課長×石田地域福祉推進課長×中井先生

広島市社協として地区社協活動拠点活性化支援事業への想いを説明した後、東区牛田学区社協での障害者基幹相談支援センターと連携した事例と、東区温品学区社協で障害者を支援する社会福祉法人と連携している事例について紹介しました。

牛田学区社協の事例では、生活困窮者の自立を支援するくらしサポート課の職員も一緒に支援を行っており、安井課長は「生活にお困りの方は社会的に孤立されてる場合も多く、住んでいる地域に寄り添ってもらえる人・場があることは非常に重要だと感じている」と説明しました。

研修後には参加していた方から「報告のあった地域に見学に行きたい」と相談があり、市・区社協として今後も拠点スタッフ同士の交流・情報交換の機会を設けていく必要性を再認識しました。

会場参加者限定！ グループワーク

地域や立場もごちゃまぜに１０グループに分かれ、①「地域の人やモノ・活動を自慢してください」、②「地域活動の夢を語ってください」、③「語られた夢の中でグループとして１つ具体的な実践案を考えてください」という流れで実施しました。

「少し時間がタイトだった」との意見もありましたが、実践案として「広島大学の留学生の出身地を小学生が予想する『ミステリーパーソン』という取組をされている地区があり、そこに企業も参加を促してみたらどうか」、「『キラキラプロジェクト』というネーミングで町全体をイルミネーションで明るくしてみたい」というような各参加者の普段の実践をもとに考えていくプロセスについて、「前向きな話し合いができて明日以降のモチベーションに繋がった」「他地域での考え方に触れられたのが良かった」という意見が聞かれました。

最後に『私のチャレンジシート』をグループ内で共有し、他のメンバーから励ましのコメントをもらうことで、「皆さんからの励ましメッセージに感動した。嬉しい気持ちになった」と多くの参加者に感じてもらいながら、研修会を終えることができました。

▼地域・包括・保健師・障害・市区社協ごちゃまぜで検討しました

8/23　地区社協役員等実践講座

『地域とつながり、動きだそう！～地域活動を「したい」「してほしい」をつなぐ、キーワードとは～』

参加対象：興味・関心があればどなたでも

▲土曜日開催のため高校生や大学生も参加されていました。

基調講演では島根県立大学准教授であり地域福祉実践者でもある田中輝美先生より、『関係人口』という言葉を用いて、今後人口が減る前提で考えていくことの説明や実践を踏まえた提案がありました。また山本学区社協の小堀会長からは、小学生の登下校の見守りなど毎日の積み重ねの中で地区社協が認知され、担い手の増加につながっているという報告がありました。オンラインでは市外の方の参加も複数あり、講座後に設けた地域活動に参加したい・してほしい方向けの個別相談では、3名の方が新しく地域活動に参加されることになりました。

トークセッションにおいて、地域活動を「したい」「してほしい」をつなぐキーワードは「地区社協活動拠点へGO！」という結論になりました。▼

▲「これまでのつながりからしか新しいつながりは生まれない」と話す田中先生

▲「住民の声に答えられるような社協でありたい」と想いを伝える小堀会長

9/9、9/17、10/27　ガイドヘルパー研修会（精神、視覚、車いす等）

参加対象：広島市障害者（児）ガイドヘルパー派遣事業においてヘルパー登録をしている方や活動に関心のある方

①「精神障害がある方の社会参加について」
講師：特定非営利活動法人ウイングかべ
あさきた相談支援センターウイング
笹原　義昭氏

②「視覚障害の理解と状況説明（ファミリアリゼーション）について」
講師：広島県立広島中央特別支援学校
大財　誠氏　　森　大隆氏

③「介助を学ぼう～大切なのは少しの知識と“思いやり”～」
講師：トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校
介護福祉学科長　吉岡　俊昭氏

①では講演を通じて障害理解に加え、相手の得意なこと・苦手なことを知り、その人にとってどういう支援が必要なのか、事前に打合せを行うことの重要性を学びました。

②では実技を通して、相手の状況や嗜好に応じて優先順位をつけながら必要な情報提供を行うことの大切さを学び、他のヘルパーの支援の様子を見ることで日ごろの自分の支援方法を見直す機会になりました。

③では昨年度よりも少し実技を多く取り入れ、丁寧な動作やさりげない配慮を行いながら、相手に興味を持ち、変化に気付くことが思いやりにつながることを学びました。そして研修後に３名から、活動についての問合せがあり、具体的な活動につながりました。